

令和7年度 大阪府立箕面支援学校 第1回「学校運営協議会」議事録

日時	令和7年7月17日(金) 10:00~11:40(本校校長室にて)			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	山本 智子	皇學館大学 教育学部 准教授	平井 晋也	校長
	千馬 外代美	本校後援会 会長	稲野 早苗	教頭
	高田 浩行	社会福祉法人 川西市社会福 祉協議会事務局 局長	松田 里絵	教頭
	大辻 美幸	本校保護者(P T A会長)	切通 圭介	事務長
			藤嶋 耕治	首席(小学部付)
			宮脇 敦子	首席(中学部付)
			李 容司	首席 養護教諭
			長峰 祐介	小学部主事
			竹中 俊	中学部主事
			丹羽 はるか	高等部主事
			北村 直樹	首席(高等部付) 事務局長
欠席者	阿久根 賢一	学校法人園田学園 副理事長 社会福祉法人天森誠和会 理事長		
	青島 薫	吹田市立こども発達支援セン ター わかたけ園 園長		
おもな テーマ	「令和7年度 学校経営計画について」			
協議内容 の概略	1. 学校長挨拶 2. 自己紹介(委員及び教職員) 3. 本年度「会長」及び「副会長」の選出 4. 各学部概要の説明 5. 協議事項 令和7年度学校経営計画について 6. 学校運営協議会について・事務局より諸連絡 7. 学校長挨拶			

<p>協議内容 質疑応答 ・ 提言等</p>	<p>【開会、平井校長挨拶】</p> <p>今年度より赴任いたしました。初任校も本校で、8年前までは教頭として勤めておりました。</p> <p>本校は昨年度40周年を迎え、若干校舎も老朽化が進んでいるものの、きれいな状態で保っていると感じています。</p> <p>本日は、学校経営計画を中心にご説明いたしますので、ご意見などよろしくお願ひします。</p> <p>【自己紹介】</p> <p>各委員、教職員より自己紹介</p> <p>【本年度委員長・副委員長選出】</p> <p>委員長：山本委員、副委員長：阿久根委員を選出</p> <p>【学校概要（各学部概要）について】</p> <p>○小学部について（長峰部主事）</p> <p> 新生 13 名を迎えスタートしている。今年度も呼吸器を使用している児童が入学している。</p> <p> 今年度の課題別グループの名称は、低学年は海を、高学年は果物をイメージした名称となっている。</p> <p> 1 学期の行事について。運動会は牛乳パックを使った活動を行った。大変盛り上がった運動会となった。校外学習は万博記念公園へ、宿泊学習はアミティ舞洲で活動をしている。修学旅行は神戸方面の予定である。</p> <p>○中学部について（竹中部主事）</p> <p> 新生は 14 名を迎えスタートしているが、生徒数が初めて 40 名を超えた。生徒の実態も幅広くなっており、在籍生徒の保護者や、学校見学会の中で、教科学習についての質問が挙がることも増えてきている。</p> <p> 1 学期の行事について。例年通り、学部生徒全員で民族学博物館に校外学習を実施した。生徒間の交流も含めた目的となっているが、生徒数増加のため目的が達成できているのかを検討し、来年度以降の実施方法について課題となっている。宿泊学習はフルーツフラワーパーク内のホテルに宿泊した。行きは通学バス乗車時に事故に遭遇したが迅速に対応をし、予定通り実施することができた。また、昨年度見学いただいた「みのまつり」を先日実施した。今年度は総合としてだけでなく、横断的に各教科が「みのまつり」に向けて目標を持ち、制作活動などを行った。</p> <p>○高等部について（丹羽部主事）</p> <p> 新生は 25 名を迎えスタートしたが、入学後、進路変更で 1 名退学し、他の学校へ編入したため、24 名となり、全体で 84 名となっている。</p> <p> 昨年度の進路について。自営の仕事を手伝うということで就労が 1 名いた。それ以外には就労移行や職業能力開発校へ行く生徒も増えている。また、生活介護では複数の事業所</p>
------------------------------------	---

を利用する家庭も多い。

今年はユニクロやGUなどを手掛ける「ファーストリテイリング」が難民に洋服を届けるプロジェクトに応募し、当選した。先日、東京の担当者が来校し、プロジェクトの内容について説明いただき、生徒主体で取り組んでいる。

今年度も1年生はお互いを知るため普通課程と生活課程を同じクラスで活動をし、2年生以降は進路指導のため、普通課程と生活課程は分けている。生活課程は生活リズムや時間を守る指導を行い、普通課程は日常生活動作の介助に時間を掛けて過ごしている。

〈高田委員〉

児童生徒の個別の課題について。わが子と買い物をしている時に物を拾ってもらった相手にわが子が「ありがとう」と言った。その言葉だけで相手も笑顔になり心が温かくなった。このスキルは学校で学んだものであるが、個別の課題についてはどのような視点で考えられているのか、教えてもらいたい。

〈丹羽部主事〉

進路指導と関係するため、特に生活課程の生徒はあいさつや身だしなみ、時間で動くことなどを中心に個別の課題としている。普通課程は日常生活動作の中でも排泄指導をし、現状の力を維持する教育を大切にしている。

〈竹中部主事〉

小学部から培った力を維持し、発展させ、高等部につないでいくことを大切にしている。また、外部の生徒も多く入学するので、実態の幅も大きいので、グループ学習で集団の力を養っている。

〈山本委員長〉

その中で、個々の課題が見つかった時にはどのようなアプローチをしているのか。

〈竹中部主事〉

個々の課題は、自立活動の中で保護者と個別の教育支援計画をもとに課題を共有し、学習している。

〈長峰部主事〉

小学部の教育目標のうち、「人と関わる力」には特に重点を置いている。身近な人との関わりが中心となるかと思うが、教師もその一人である。最近の出来事として、6年生まで紙パンツを使用していたが、無くて過ごせるようになった児童がいる。最初は児童と担任との関係性の中でできるようになったと思うが、徐々にどの教師とトイレに行っても排泄ができるようになった。個別の課題ではあったが、誰とでもできるようになったのは大きなことである。

個別の教育支援計画も就学前施設から移行されるが、課題などもわかりやすく記入されており、それをもとに作成ができています。

〈山本委員長〉

首席として、各学部と関わっていると思うが、それぞれのアセスメントの強みについて教えていただきたい。

〈藤嶋首席〉

保護者の中には入学して早々は、わが子が教育によってどれくらい成長するのかがわか

らない中で、漠然とした不安感があることが多い。そのような中で、日々、連絡帳や電話で対応をしているが、中学部、高等部と違って、積み重ねのない小学部は特に丁寧に行っていると感じている。

この約15年で放課後等デイサービスの充実したことにより、利用している家庭が多い。それに伴い、学校でも家庭でもない第3の場所として入学前、夏休みにも使用している。なので、デイサービスとの連携や情報共有（ケース会議）も大切である。そのような部分に関わっていることが特徴と思っている。

〈山本委員長〉

学校が社会情勢に柔軟に対応することが増えたということなのではないか。そして、箕面支援学校は柔軟に対応できている。

〈宮脇首席〉

中学部は人数が増えたといっても集団の規模は小さい。そのため、団結力があるのは強みと思っている。例えば、「みのまつり」でやりたいことが話し合いの中で出された場合、成功させるためにみんなで意見を言い合える学部である。

〈山本委員長〉

そのような活動の中で、生徒の伸びしろを見つけていくということか。

〈宮脇首席〉

「みのまつり」を楽しむだけでなく、それまでに横断的に授業の中で、どのような取り組みをして、どのように成長をさせていくのかをカリキュラムとして話し合いを行っている。

〈北村首席〉

高等部は以前、生活課程が多くなる見込みであったが、高校に入学できるシステムも構築され、地域の中学校から支援学校に生徒も増えず、毎年12名から15名までの範囲となっている。また、学年間も交流もあり、他学年での発表会などを見学することも多く、教師も学部全体の生徒の様子を知ることができる機会も多い。

首席としては、学部主事も長くしていた経験から、どの生徒、保護者とも話をするので、どんなことも対応しやすいのが強みと思っている。

〈李首席〉

看護生が実習することがあるが、教員がリハビリや医療的ケアをして健康管理をしていることに驚くケースが多い。学校内にいると当たり前に行っていることではあるが、大学時代に、そこまで学んできているかというところではなく、勤務をしながら研修を受けたり、教員間で学んだりして、実務にいかしている。また看護師とも、児童生徒がよりよい環境下で教育を受けられるように情報共有をし、それぞれが役割を理解し尊敬を込めていることが根底にあると感じている。

〈高田委員〉

それぞれの役割分担で仕事をしていると、重なる部分と隙間の部分が生まれてくる。重なる部分は役割を決め、隙間の部分は誰が埋められるのかを考えるのが連携であると思っている。箕面支援学校はそれができているため、それぞれの立場の人たちが役割分担で仕事をしていても連携ができていると言える。これは簡単そうに見えて、とても難しい。これを続けてもらいたい。

〈大辻委員〉

わが子は小学校は地域の学校に行き、中学部から箕面支援学校に入学した。小学校の時には他の児童の活動を見ることが多かったが、箕面支援学校の中学部に入学してから、スポットライトが当たったように輝いて見えるようになった。子どもが子どもらしくいられる場所として先生方が熱心に接してくれていることに、安心して通わせられる学校と思っている。また、同じような不安を共有したり、相談したりできる保護者もあり、そちらも感謝をしている。

【令和7年度学校経営計画について】

〈平井校長〉

めざす学校像は変更なし。今年度からキャッチフレーズつけて目標をわかりやすく示している。重点目標について、特に大きな変更はないが、大切になるのは児童生徒の日々の教育活動の充実にある。それに加えて教職員の働き方改革も含まれてくる。

働き方改革に関して、本校では教職員のストレスチェックは平均を下回っている。これを維持していきたい。

開かれた学校作りに関しては、学校の「情報発信」や「地域における支援教育のセンター的機能」などについて目標にしている。センター的機能の中には、地域の学校に対しての講師派遣なども含まれる。

安心で安全な学校づくりに関しては、児童生徒向け・教職員向けの「人権研修」の充実や「大規模災害への対応策」、「医療的ケア」についての内容を目標としている。「医療的ケア」については安心・安全、看護師との連携を記載している。

【学校経営計画について質疑応答・委員より感想】

〈千馬委員〉

わが子は卒業して23年になるが、今日の話聞いて、以前と変わらず小学部、中学部、高等部のスムーズな引継ぎができていると感じ、嬉しく思った。同じ学校内と言えども、保護者としては、学部が変わると、何かしらの不安を抱える。小学部の時には、熱心に子どもと関わってくれる先生方の姿を見たり、他の保護者と話をしたりすることで、不安はすぐに解消され、親も成長させてもらった時期であったことを思い出した。中学部では、グループ学習が多くなったが、中学部のキャッチフレーズが「一人ひとりが担任」だったので、どの先生にわが子のことを聞いても答えてくれるような学部だった。高等部は学校だけでなく、自宅でも取り組みをしていこうということで、継続的な学習を行い、卒業した。今は重度な児童生徒も在籍をしている箕面支援学校だが、一人ひとりがスポットライトを浴びているのは嬉しい限りである。

〈高田委員〉

働き方改革と人権教育推進に係ることで、最近、学校教職員の不適切な行動が報道されることがある。兵庫県支援学校の管理職の話で、保護者の中には学校に言いにくい内容があり、学校ではなく他に相談ができる窓口が必要ではないかと相談を受けたことがある。ただ、兵庫県教育委員会からの回答は、まずは学校で相談を受けることが前提とのことであったが、大阪府はどうか。

〈平井校長〉

何か起こった時には教職員への注意喚起は行っている。保護者が学校に言いにくい相談は大阪府教育委員会に直接伝えることもあり、システム（すこやかホットライン、すこやか教育相談など）化もされている。

〈高田委員〉

個人情報観点で保護者へ「児童生徒の写真を SNS などにアップしないでください」と学校からは伝えるが、最近の報道を受けて、教職員側も指摘される時代となっているので、気を付けないといけないことでもある。

〈平井校長〉

校内のルールで教職員は自分のスマートフォンやタブレット端末で児童生徒を撮影しないこととなっている。撮影できるのは学校所有のデジカメやタブレット端末のみとなる。

〈切通事務長〉

先ほどの話だが、教職員からすると、教育委員会から保護者の話を聞くよりも、直接言っていた方がいいのではないかと。やはり、相談できる学校の環境が大切と思う。

〈山本委員長〉

保護者のその時の心理にもよるのではないかと。苦情を言いたいただけなのか、解決したいのかなどの違いはある。

〈切通事務長〉

この学校はチームとして取り組んでいるので、何かあった場合は学校に話をした方が解決までがスムーズなように思える。担任に言いにくいのであれば、別の教職員に相談するなどできないのかと思う。

〈稲野教頭〉

保護者の中には担任との関係を崩したくないため、管理職に相談するケースもある。

〈山本委員長〉

相談を受けた教職員側も保護者がどうしたいのか、どう思っているのか、理解して対応しないとけない。

〈李首席〉

教育庁から毎年通知が来ているが、学校に言いにくいこと（セクハラ、パワハラなど）を直接教育庁に相談する窓口があり、先日、マチコミでも配信された。誹謗中傷はしないなどルールはあるが、大阪府は直接相談ができる窓口がある。

〈平井校長〉

保護者の中には学校へ言いにくい方がおられるのも事実である。教職員も一生懸命やっているが、相談をすることで、さらに負担になるのではないかと感じるようである。本校は直接校長室へ言いに来られる保護者も少ない。そこでバランスを取ってくれているのが、教頭や首席なのかと思う。その情報を部主事や担任に自尊心を傷つけないように伝えてくれている。

〈松田教頭〉

赴任して4か月目になるが、保護者からの相談はある。部主事、首席とも積極的に保護者と関わっているので、担任に言いづらいことの受け皿になっているのは感じている。どうしても担任だけでは賄えない部分も出てくると思うので、連携をしながら解決をしていかなければならないと思っている。

〈高田委員〉

この学校は「大切なところ」を維持しながら高い水準で、学校運営を進められている。わが子は中学校までは地域の学校で過ごしており、そこでも周りの友だちと一緒にいい環境で過ごせたと思っていたが、本人にどの時期が一番楽しかったかを聞いたところ、「高等部」と答えた。それは本人には自分にスポットライトを浴びている感覚があり、充実した学校生活を送っていた証だと嬉しく思っている。

〈山本委員長〉

先生方の話を聞いてみて、「伝統」がしっかりと受け継がれている学校である。しかし、これは当たり前ではなく、継承する難しさは他校から相談を受けることもある。箕面支援学校の先生方の努力もあり、時代の変化にも対応されていると実感した。

排泄指導の自立について。本来、心理的なアタッチメントができた後に、「この人がいるからがんばってみよう」と子どもが思う最初の段階が排泄の自立と言われている。それを考えると排泄指導は小学部の早い段階で取り組むべきである。子どもの実態によって様々だが、指導を行ってから1週間で紙パンツが取れることもある。また、小学部4年生の児童が、体のめぐりをよくするために姿勢管理などを行うことによって自立したこともあった。それを考えると、体の大きくなった高等部の生徒は介助の面でもかなり大変になる部分もあり、子どもの体の状態によって、排泄のしづらさもあるのではないかと考えられる。

「楽しく」は大切であるが、学校は「学び」についても考えていかなければならない。子どもは120%頑張ったことでできることで達成感が得られる。80%でできたことは子どもにとって心から楽しいと思えているのか。シンプルな支援や様々な支援を減らしていく大切さも考えてもらいたい。

【学校運営協議会について】

〈北村首席〉

第7条 「委員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし、同一の委員は、連続して6年を超えて任命しないものとする。」について「ただし」以降の文言は大阪府からの実施要項で削除されているため、本校でも第3回目の学校運営協議会で検討し、削除する方向で考えている。

【平井校長より】

本日は、ご意見、ご助言いただきましてありがとうございました。中学部のどこでもカフェにご参加いただき、生徒の活動や笑顔もご覧いただけたかと思えます。どこでもカフェには校外出店もできるように屋台もあり、今年度も実施する予定です。

第2回もよろしく願いいたします。